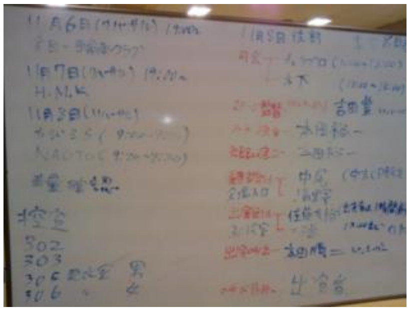
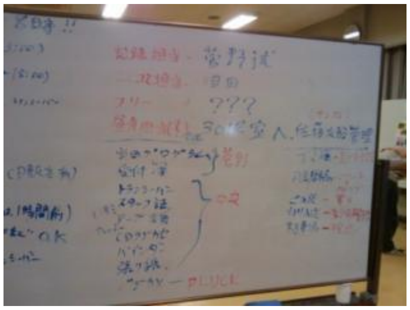
FREE STYLE FESTA-SP ‘09実施までの道のり

■当初の計画
中心市街地において野外の複合（パフォーマンス、アート、飲食、その他サブカルチャー）イベントの実施を計画し、申請をさせていただいた（会場に募金箱を設置し、共催団体へ収益を寄付）。
上記のように申請させていただいたが、今回は、チャリティーイベントの「前段」として実施するという形で助成をいただくこととなった（イベントのおもしろさ・将来性を評価いただいた）。

■FSF実行委員会
新年度、それぞれが仕事を持つにも関わらず、４月以降毎週のようにメンバーが集まり、よりよいものを創り上げるべく協議を重ねた。FSF実行委員会の概要は別添を参照。





写真は打ち合わせを撮影したもの。イベント前最後のミーティングの様子

■会場の決定と収益事業の新設
協議を重ねていく中で、予定していた会場のステージ部分を街なか活性化のイベントと共催で実施できることとなり、ステージ設営～運営までの大幅な経費が節約できたことを受け、募金箱のみの収益活動ではなく、「収益事業」を実施し、地域に新たなお金の生まれる仕組みづくりにチャレンジすることを決意。

■収益事業の検討
メンバーからは様々なアイデアが出された。
「漫画の原画展」やスポーツアスリートによる「講演会」など、一般的な入場料収入を見込むもののほか、福島市を拠点にJリーグ入りを目指すチームの試合でFSFを実施し、ハーフタイム中や試合後に「賞金争奪ジャンケン大会」を実施する収益事業といった斬新なアイデアも飛び出した。

■収益事業の決定
様々な可能性を模索した結果、初めてかつノウハウのない私達でも実施可能なものということで、「若者による元気になれる講演会」の開催を決定。
ノウハウはなくても、福島を元気にしたい想いだけはある。まちを元気にするならまず人を元気にするべきという考えの下、講演会を実施すべく講演にのみ対象を絞った講師の選定、会場探し、協力的な共催先の選定がはじまった。

■共催先との出会い
共催先については、当初、地元福島大学の「まちづくりサークル」を予定していたが、当のサークルはゼミの一部で「地域食材を使った活性化」に取り組むなど、新年度より新たな試みを実施しており、講演会開催とはまた違った団体であるため、他団体の選定に切り替えた。
そんな中、まちづくりサークル「PLUCK」の評判を耳にした。
様々な立場の人が参加し、多様な企画が好評の団体で、講演会にも力をいれているとのこと。早速、趣旨をお話したところ、共催を快諾いただき、いよいよ講演会の実施が可能となった。
＊共催先および講演会の内容については、別紙を参照。
あえて講演会部分については、共催先でまとめていただき、FSF側では編集をおこなっていません。

■講師、内容決定そして集客
限られた予算ではあるが、1名ではなく2名（コラボ）に挑戦したいというのもFSFの考えであり、素晴らしい講師のセッティングができた。

香取貴信（13:00～14:00）
「福島市活性化のヒントはすべてディズニーランドで教わった」

原伸介（14:15～15:15）
「福島の若者よ、夢は仕事になるんだぜ」

香取貴信×原伸介コラボ講演会（15:30～17:00）
「夢を持ち、福島から日本を変える！～仕事にこうしてアツくなれ！～」

内容は決定したものの、綿密な集客計画があるわけでもないので、とにかくチラシを配ってのPR、市内の関係各所へのDM、許可をいただいた他講演会でのPR活動を積極的に展開した。

■PR、PR、PR・・・
初めての試みということもあり、とにかくPRをしたが、なかなか参加者数は伸びない。
それでもPRするしかないのであらゆる手段でPRした。
DM（約150ヶ所）、ブログ、他講演会での配布（1000名規模の会場を含む数箇所で実施）、TVのイベント枠の活用、新聞社への訪問PR、11月3日にともまちなかでイベントを開催する団体との協同広告、行政のイベントカレンダーへの掲載

■ステージイベント、突然の実施中止
PRに奔走するなか、突如実施予定だったステージイベントが全国的に猛威をふるっている「新型インフルエンザ」に対する危機管理を理由に中止を言い渡された。
早い時点での判断だったが、広域から様々なジャンルのメンバーが集まる当実行委員会のステージイベントは、危機管理上、感染拡大にもつながるため、ふさわしくないとのこと。
ここまで「野外」、「複合」、「若者によるまちづくり」にこだわっていた我々にとって、野外のメインであるステージイベントの中止はあまりにもショックだった。

■子ども未来フェスタ
そんな中、中心市街地は離れるが、子ども達の未来のため、様々な団体が出演するイベントのステージ部分を実施していただきたいとのオファーをいただいた。屋内ではあるが、これ以上結論を先延ばしにしては、年度内の実施は不可能と判断し、助成事業の変更の手続きをさせていただき、子ども未来フェスタのステージ部門をFSFが「主催」するという形での実施が決定した。

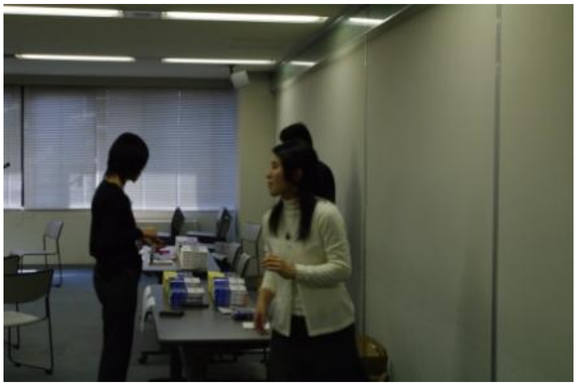
イベントのポスター
時間がない中、オファーをいただき、対等な形で開催させていただけることとなった。
写真では分かりにくいが、ステージ、アート・ワークショップの運営はFSFとの記載もある。

■ステージ部門の確定を受けて製作した複合チラシがこちら

デザイン、3つのイベントの柱、ようやくすべてが出揃い、講演会と平行して、また新たにPR活動がはじまった。

■講演会事業の難しさを実感
なかなか人が集まらない・・・様々なPRをしたがギリギリまでチケットが伸びない。
入場料徴収をする収益事業の難しさを実感。
それでも申し込んでくださった方へは参考DVDを同封するなど、当日楽しんでいただける工夫を大事にした。

■そして・・・いよいよ講演会当日



午前9時にメンバーが集合
各自が会場設営、書籍販売準備、受付、講演会内容確認など積極的に動いていました。

■場所は少し変わって当初、野外での予定会場だったところの当日の様子

当日はかなり冷え込みました。なかなか野外の場合、参加者は気温に左右されることを実感。
過去にFSFにもご出演いただいたお笑い芸人さんがネタを披露中。FSFとしてはちょっと複雑です。

ともに複合チラシを作成し、配布しましたが、どこも苦戦している様子でした。

■講演会スタート

受付開始

普段とは正反対のスーツで挨拶をする代表吉田

■魅力的な講師のお二人

香取さん

原さん

■コラボ講演会

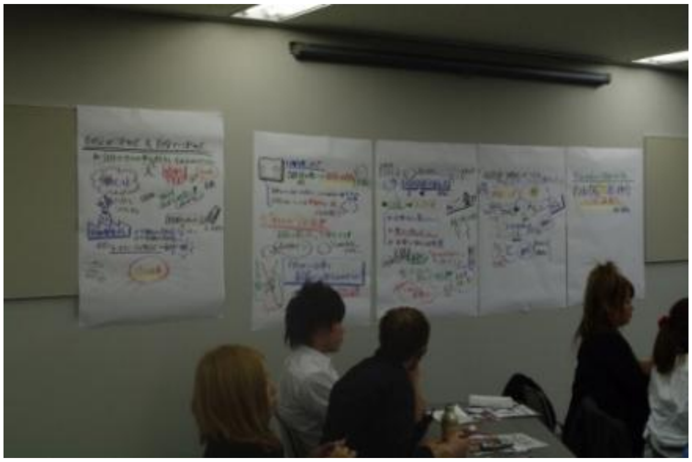
■当日、PLUCKからの申し出により、ワークショップ形式での実施

当日は約50名の参加者。
和やかな雰囲気でお互い学びを共有できていたようでした。
両講師ともにワークショップのテーブルをまわって参加者へ貴重な体験談を話してくれたり、意見交換など積極的に参加いただきました。

■講演会内容は別紙を参照。PLUCKさんにまとめていただきました。
PLUCK中心人物がこのふたり

左：写真右、当日の司会＆ファシリテーションまでこなした代表阿部さん
右：副代表の後藤さん、会場を驚かせたファシリテーショングラフィックを披露

■ファシリテーショングラフィック



簡単に言えば講演を絵で板書ですが。
すごすぎです。

■講演会での学び
チケットの値段（3000円）が福島市としては高価だった。
ひとりひとりに訴えかけるPRができなかった（チラシを配ることに特化しすぎた）。
企業研修への売り込みなど、一般以外の集客の仕組みなどを考えておけばよかった

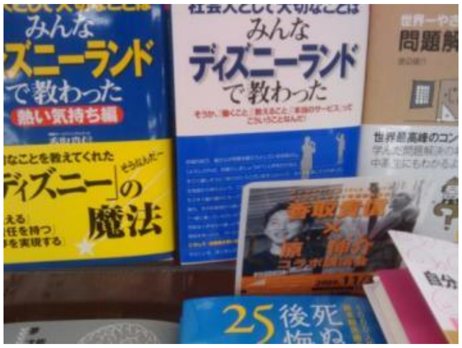
■PLUCKとの関係
本当によい関係で共催することができた。初の講演会だったが、FSFにないノウハウのすべてをPLUCKには補っていただいた。それればかりではなく、記録用カメラの購入についても、インターネットを使って購入するノウハウ（節約）についてもご協力（代行）していただいた。

■後日、御礼
チラシを配布させていただいた行政機関、企業、イベント関係者など、お世話になった方へ御礼状と今後のFSFの考えを送付させていただきました。
少し図々しいですが、御礼ばかりでなく、FSFの新たなビジョンを多くの皆様に知っていただきたく、同封させていただきました。反応はなくとも、これも次なる事業へ向けたPRと考えています。

■逆に届いた感謝状

少しでも私たちの企画から何かを感じていただけたのであればうれしいです。
微力でも、無力ではない。励みになります。

■反響



市内の書店では、学びのFSFチラシをポップに使った講師の書籍コーナーが！
確認をいただいていなかったので、うれしかった半面、複雑な感じもしました。

■11月8日ステージ、アート・ワークショップのFSF
当初、同日開催だったはずの2部門。福島県青少年会館、子ども未来フェスタと共催にて実施。
実は、前日7日に行われた同イベントの開会式の音楽隊もFSFのセレクト。

市内で活動するシンフォニックアンサンブルさん。元気に開会式を盛り上げていただきました。

■こども未来フェスタ当日の様子
当日は子どもたちを楽しませる様々なブース、展示、アトラクションが展開されました。

イベント的には目玉の移動水族館“アクアラバン”

子どもたちをひきつけたバルーンアート　　　パネルを使った活動紹介

常に子どもたちと活動しているガールスカウトのブースはとても盛り上がっていました。

楽しく学べる体験コーナー。電気、土砂の流れなどの理科実験ブース。

入口では餅つきも行われ、つきたての餅が無料で振る舞われました。

消防（行政）もレスキュー体験コーナーで参加。あらゆる団体が子どもたちのためにブースを展開。

■FSFの準備

FSFパンフおよび受付の様子

実行委員会代表であり、出演者でもある中吉の二人。当日も音響機材オペレーターの方と裏方をすべて担当。もちろん朝のリハーサルから付きっきりです。

■いよいよステージのFSF

お笑い芸人ラスカル39号

ヒューマンビートボックスのパフォーマー

華やかな一輪車のパフォーマンス

ブレイクダンス

■集客の工夫
子どもたちにFSFに目を向けてもらうべく、当日にお菓子を用意し、出演者・実行委員会メンバーが中心となり、入り口で配布！呼び込みって大事。とても効果的でした。
対象（参加者）に合わせたイベントに対する付加価値。よい学びでした。

■ポイントは司会者

司会者は地元で活躍のお笑い芸人（セミプロ）＆ダンスイベントなどの主催者（素人）
どちらも好評でした。様々な人が自分の特技で活躍できる。これもポイントです。

■多彩な出演者子ども～若者？まで

キレイな衣装や和装のこどもたち

会場が一体になって踊れるよさこい

笑えるマジック
来場者との距離がいい感じです。

一般公募の参加者
何かやってみたくてこの日のために練習したそうです。

■改めて
参加者の多ジャンルさ、FSFの強みです。子どもから30代前半の若者（自称？）までが日頃の成果発表を通じてまちづくり！とても素敵なことだと思います。特に見かけで判断されそうなブレイクダンスのパフォーマーたちの出演後のMC（トーク）からは人の良さがにじみ出ていました。何かに真剣に取り組む若者の姿は見る人に感動や明日への活力を与えてくれます。

■アート・ワークショップのFSF

展示＆即興似顔絵の大学生
特に似顔絵は行列ができるほどの大盛況でした。
また、他の出展者との交流も大学生にとっては刺激となったようでした。

盆栽の展示。もちろん若者のです！実は60代の男性に大ウケ。

手作り雑貨＆フェルト小物
とてもかわいらしい雰囲気の作品たちでした。

お店オープンを夢見る1dayショップ
販売された手作りベーグルは午前中に売切れました。

ママさんサークルの展示（活動紹介）
若いママさんはイベント大好きです。

■褒め言葉
「トイレにいく暇がない」、これがFSFにとって最高の褒め言葉。
次から次へと様々なパフォーマンスが行われるステージをみる会場の様子です。

左：ステージの進行を客席からも確認する中吉（中村）
右：様々なパフォーマンスを真剣に見つめる来場者のみなさん

■ステージのFSFとの交流
盆栽展示者や手作り雑貨＆フェルト小物の作家さんへはステージのFSF中、司会者からのインタービュー も実施。お客さんを飽きさせず、自分のPRもできるよい交流タイムでした。

■よいところ
見てよし、参加してよし、ほしい作品があれば買えて、パンもある！
アート・ワークショップのFSFは会場等の都合で限られた出展者ではありましたが、いろいろなジャンルの方に参加いただきました。ステージのFSFとの交流もでき、とてもよかったです。

■フィナーレ

大トリを務めた中吉のステージ。
いつもながら、実行委員長として、出演者として、またステージの演出家としてとにかく表から裏まで大活躍。
会場も大盛り上がり！

あまりの盛り上がりぶりに主催者、出演者、スタッフが一同に集まってのフィナーレがFSFの会場で行われました。一体感がありとても和やかな雰囲気でした。ラストは中吉のアンコールを一曲。あとは来場者まで一緒になって歌って踊れて盛り上がれちゃう仕組みがあれば完璧でした。

■こども未来フェスタ動員
イベント全体11月7、8日で5000名を動員（公式発表）。
8日だけで3000名。
FSFで用意していたパンフレット300部も午前中でなくなる盛況ぶりだった。
出入り自由のステージ＆ブース展開のため正確な来場者数は不明だが、FSFのみで500名程度の集客はあったと確認している。

■FSFの魅力まとめ
・出演ジャンルが多彩である
・客層が多様である（子ども～お年寄り）
・様々な発展の可能性がある（今回は同ホールでアート・ワークショップのFSFが開催できた）

■FSF－SP‘09を終えて
11月3日、当実行委員会としては初の試みで収益事業と位置付けた学びのFSF、そして8日のステージ、アート・ワークショップのFSF準備と、当初予定とは異なる開催だったため、事務局は確認や調整に追われ、改めてイベントを開催することの準備の大変さをとにかく実感しました。
8日が無事に終了してスムーズにこの事業のまとめに入れると思ったのも束の間、出演者・関係者からインフルエンザの発症。事務局としては、感染拡大に努めるべく情報収集、連絡調整に追われた。
また、そのような状況の中、運営のまとめとなる、FSFブログの更新がこまめにできなかった点、助成事業のまとめのHPが予算の関係上、市販ソフトでの作成となった点が残念であった。ブログやHPは情報発信の要であるので、時間はかかるが、この助成事業のまとめとして最後までしっかりと取り組んでいきたい。
インフルエンザ対応と講演会、こども未来フェスタの御礼が概ねひと段落したのは2009年末でした。
さまざまな予定外と苦闘しつつも、すべての内容を開催できたこと、FSFとしての想いをカタチにできたことは、支援していただいた日本財団関係者の皆様のおかげと心から感謝しております。この場をお借りして御礼申し上げます。
また、2010年度は残念ながら余裕がなく、助成事業への申請は辞退させていただきましたが、このまとめ作成を含め反省評価をしっかりさせていただき、また助成いただける事業を企画したいと思います。
なお、このイベントを通して、同じ日本財団の助成を受けている伝統舞踊に取り組む団体との横の連携もできた点もよかったと思う。FSFは来年度辞退させていただきましたが、助成をいただいた経験を生かしてこの団体と共に地域を盛り上げ、活動することも大事にしていきたいと思います。
以上、報告書の補足として作成させていただきました。

FREE STYLE FESTA 実行委員会
委員長　吉田　豊